

お正月に読みたい「おススメの一冊」



点字図書

録音図書

みずかみかずよ生誕80年記念
詩画集「ふきのとう」
 みずかみかずよ/詩 西川幸夫/画
 詩画集「ふきのとう」刊行する会

作者は八幡出身の詩人。37編の詩に、北九州市在住の淡彩画家が絵を添えた詩画集。表題作「ふきのとう」を読んだ瞬間おもわず笑みがこぼれ心が暖かくなり、一気に読んでしまいました。作者が紡ぐ詩はどれも柔らかく、分かりやすい言葉でつづられていて、刊行の祝辞にある「子供にも、大人にも、老いた人にもまっすぐに暖かく響いてゆきます」に納得です。視覚障害のある私には、詩に添えられている絵を見ることはできませんが、ボランティアさんによる点訳・音声訳の絵の説明に助けられ、イメージを広げることができました。

点字図書館
 福島朗子さん



点字図書館 ☎645・1210
 視覚に障害のある人のために、点字図書や録音図書を貸し出しています。

〒806-0021 八幡西区黒崎三丁目15-3、コムシティ5階 開10～17時30分 休火曜日、祝・休日(火曜日が祝・休日のときは翌日も休館)、12月28日～1月4日

〈ご利用にあたって〉登録が必要です。北九州市内に居住か通勤・通学し、視覚障害の身体障害者手帳を所有している人が対象です。



ぼとんぼとんはなんのおと

神沢利子/作 平山英三/絵
 福音館書店

ふゆごもりのあなのなか、熊のかあさんが二匹の坊やを生みました。坊やたちはすくすく育ち、外から聞こえてくる音に耳を澄ませます。「カーン、カーンってなんのおと？」音が聞こえる度にかあさんに聞く坊やたち。白い雪とほのかな縹(はなだ)色に包まれる森の奥、木の洞の中で寄り添いながら春を待つ熊の母子のぬくもりがしみじみ伝わる作品。淡く柔らかな色彩と優しい筆遣いが、寒い森の姿を優しく描き出し、冬の自然の息遣いを鮮やかに伝えています。温かな毛布にくるまれながら、家族と読んでもらいたい一冊。

子ども図書館
 司書 亀山愛理さん



子ども図書館 ☎571・0011

〒803-0813 小倉北区内4-1 開9時30分～19時(土・日曜日、祝・休日は、9時30分～18時) 休月曜日(祝・休日のときは開館し翌日が休館)、12月27日～1月3日、館内整理日、特別整理期間

子ども電子図書館

図鑑や学習参考書など約2000冊の電子図書をそろえており、インターネットで貸し出し、予約を行うことができます。利用には、電子図書館専用のIDが必要になります。

子ども電子図書館はコチラ▶



こんにちはウーフ

(くまの子ウーフの童話集・2)
 神沢利子/作 井上洋介/絵
 ポプラ社

主人公の子熊のウーフが、身近な世界に「不思議だな」「どうしてだろう」と問いかけながら成長する8編の童話。第6話「雪の朝」は、冬の季節にピッタリのお話。いつもより鼻先が冷たい朝、ウーフを待っていたのは一面の雪。さっそく外に出て遊ぶと…。雪の明るさや誰かの足跡に興味を示し、友達との遊びをまじえてユーモラスに展開する様子は、小さな子どもの時間そのものともいえるウーフの世界。読んでもらっても自分で読んでも楽しめるお話集です。この童話集は戸畑出身の作者が生んだ代表作の一つで、子どもたちに50年以上読み継がれています。

子ども図書館
 司書 福島波磨子さん



インビンシブル

瀬下猛/作
 講談社

この作品は架空のラグビーチーム「北九州小倉ホワイツ」の低迷からの再起を描く作品です。突如現れた謎の助っ人である主人公を軸に繰り広げられる迫力ある展開と熱い人間関係が魅力です。ホームグラウンドとして登場する「ミクニワールドスタジアム北九州」を始め、北九州の街並み・名産が随所に出てくるこの作品は、皆さんも身近に感じることができるのではないかと思います。本作は現在、週刊漫画誌「モーニング」にて連載中。お正月に開催される大学・高校ラグビーの試合ともども、選手たちの白熱した戦いから目が離せませんね!

漫画ミュージアム
 田中千尋さん



漫画ミュージアム ☎512・5077

〒802-0001 小倉北区浅野二丁目14-5、あるあるCity5・6階 開11～19時(入館は18時30分まで) 休火曜日(祝・休日のときは開館し翌日が休館)、12月31日～1月3日(12月28日、1月4日は特別開館) 料一般480円、中学・高校生240円、小学生120円、未就学児は無料

本にまつわるビックリ! まめ知識 / 中央図書館に世界最古の印刷物が!

中央図書館に所蔵されている「百万塔陀羅尼」は、制作年が明確な世界最古の現存印刷物と言われている「陀羅尼(経文)」を木製の小さな塔に納めたものです。天平宝字8年(奈良時代)、称徳天皇によって制作され、東大寺や法隆寺など10カ所のお寺に10万基ずつ奉納されました。「藤原仲麻呂(恵美押勝)の乱」で大勢の死者が出たことを悼み、この戦いを平定した際に、人々の供養と平和への願いを経文に込めた、と伝えられています。中央図書館が昭和50年(1975年)に開館した際、そのうちの 하나가寄贈され、歴史的な貴重資料として大切に保管されています。※現在は非公開です。



▲木製の三重の塔の中に「陀羅尼(経文)」が収められています